

独立行政法人

大学入試センター

大学入試センターについて

大学入試センターの目的

大学入試センターは、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施する試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）における教育の振興に資することを目的としています。

組織の概要

設立	昭和 52 年（1977 年）	理事長	牛木 辰男（令和8年（2026 年）4月～）	役職員数	153 名

主な業務内容

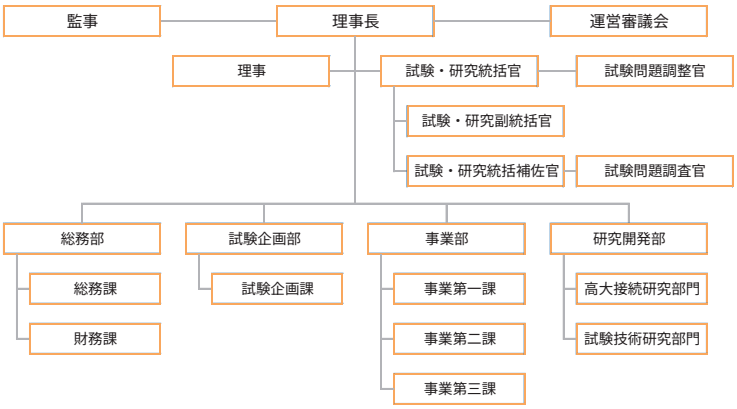
大学入学共通テストの実施

大学入学志願者に対し大学が共同して実施する大学入学共通テストに関し、一括して処理することが適当な業務を滞りなく確実に実施します。

大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究

大学入学者選抜のナショナルセンターを目指して、高大接続や大学入学者選抜に関する時代の要請を的確に捉えながら、大学や高等学校等と連携しつつ大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究を実施します。

組織図



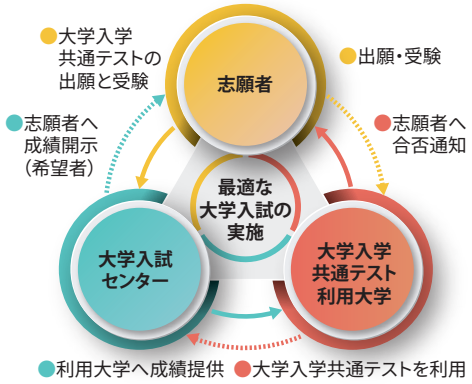
大学入学共通テストの概要

大学入学共通テストの仕組み・運営

大学入学共通テストは、同一の期日に同一の試験問題により、この試験を利用する国立、公立、私立の各大学が大学入試センターと協力して実施します。

大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票などの発行
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供
- 試験成績の本人開示



利用大学の役割

- 大学入学共通テストの利用教科・科目及び各大学ごとの学力検査などの予告
- 試験問題作成に携わる者の派遣
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 試験問題の保管・管理
- 試験の実施、答案の整理・返送
- 試験成績の請求・利用

大学入学共通テストの問題作成

高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成

高等学校学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」を通して育成することとされている、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視した問題作成を行います。

各大学は、それぞれの判断と創意工夫に基づき、大学入学共通テストを適切に利用しています。

各大学での利用方法の例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、大学入学共通テストの出題教科・科目を総合的に活用
- 調査書と大学入学共通テストで第１次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施
- 学校推薦型選抜において、大学入学共通テストの国語・外国語を課し、大学が行う試験として面接を実施
- 大学入学共通テストの数学・外国語を課し、大学が行う試験は理科のみを実施
- 大学入学共通テストで必要とする成績水準を明示した上で、大学入学共通テストの成績がその水準に達している者は大学が行う試験に進ませ、大学入学共通テストの成績は合算せずに大学が行う試験の成績のみで合否を判定

大学入学共通テストの実施に関する業務

大学入試センターは、「共通第１次学力試験」、「大学入試センター試験」、「大学入学共通テスト」と、日本の大学入学者選抜の大規模試験の実施に関する業務を、約50年間にわたり行っています。

志願者のスケジュール

7月～　マイページの作成
出願手続のために共通テスト出願サイトにマイページを作成します。

9月～　出願内容の登録・検定料等の支払い
共通テスト出願サイトのマイページから出願内容の登録を行います。志願者情報の登録、顔写真のアップロード、受験教科等の登録を行い、検定料等を支払うと出願が完了します。

12月～　受験票の取得・印刷
共通テスト出願サイトのマイページから受験票を取得・印刷し、試験当日に持参する必要があります。

1月　共通テスト受験
指定された試験場で共通テストを受験します。

志望大学への出願等に係る手続
大学入学共通テストを利用する選抜に出願する場合、成績請求情報を志望大学へ提供するための手続を行います。

4月～　成績の閲覧
出願時に成績の閲覧を希望した志願者は、４月以降の一定期間、共通テスト出願サイトのマイページから成績を閲覧できます。

▶ 共通テストの企画・立案

国立、公立、私立大学関係者や高等学校関係者等で組織する「大学入学共通テスト企画委員会」をはじめとする各種委員会等を置き、共通テストの企画・立案に関して調査・審議しています。

▶ 受験案内等の作成

志願者及び高等学校等関係者が、共通テストの出願手続や試験の制度について十分に理解した上で、出願手続を円滑に行うことができるよう、必要な事項をまとめた受験案内、受験上の配慮案内等を作成しています。

受験案内、受験上の配慮案内等は、大学入試センターのウェブサイトに公開するほか、共通テスト出願サイトからもダウンロードできます。



▶ 各種マニュアルの整備、試験実施業務の周知徹底

共通テストは、同一の期日に同一の試験問題により、全国各地の試験場において実施する大規模試験です。

各試験場において公平かつ円滑に試験が進められるよう統一的な基準を示す各種マニュアルを整備するとともに、分かりやすく解説した説明資料や解説ビデオを提供し、試験実施業務の具体的内容について周知徹底を行っています。

▶ 試験問題の印刷・輸送

印刷・輸送における安全で確実な輸送体制の確保及び秘密の保持を徹底しています。

試験問題冊子や解答用紙等は、堅固なセキュリティを確保の上で印刷を行った後、安全で確実な輸送体制のもと大学入試センターから試験場の大学に輸送しています。

大学に対して、秘密保持など輸送時の留意点を周知徹底するほか、万が一のトラブル発生時でも迅速に対応できるよう緊急時の体制を整えています。

▶ 受験上の配慮申請の受付・決定等

病気・負傷や障害等のために、受験に際して配慮を希望する志願者に対し、個々の症状や状態等に応じた受験上の配慮を行っています。

受験上の配慮については、障害等の種類や程度にかかわらず、必要な配慮事項を申請することができます。

▶ Web出願処理

出願の受理やシステム上の処理などを行います。



▶ 試験場の指定

各志願者の試験場は、原則として都道府県を単位とする試験地区に基づき設定した試験場の中から、大学入試センターが、志願者数の分布や使用施設の収容数等を考慮し指定します。

▶ 受験票の発行

12 月上旬頃までに受験票を発行します。受験票には、試験場や登録教科等が表示されます。

▶ 共通テスト実施当日の業務

共通テスト実施当日は、全国各地の実施大学と緊密な連携体制を敷いています。

大規模共通試験を適切に実施するため、大学入試センターが作成した各種マニュアルに基づき、全国で数多くの大学教職員が試験の運営（本部作業、試験監督、受付、警備等）を担当します。



共通テスト当日の試験室（東京大学本郷試験場）

▶ 採点

受験者の答案等は、すべて大学入試センターに返送されます。

答案は、OMR(光学式マーク読取装置) を用いて、約４日間かけて読み取った上で採点します。



OMR（光学式マーク読取装置）

▶ 試験成績の各大学への提供

共通テスト利用大学からの成績請求に基づき、受験者の共通テストの成績を提供しています。

▶ 試験問題の外部評価と自己点検・評価

問題の質を高めるため、各年の試験終了後、問題ごとの正答率などの詳細な分析を基に、高等学校教員等・教育研究団体による外部評価と問題作成者による自己点検・評価を実施し、その評価結果を次年度以降の問題作成に活用しています。

評価結果については、各教科の正答率や得点分布などとともに問題評価・分析委員会報告書として公表しています。

高等学校教員等 教育研究団体 → 外部評価

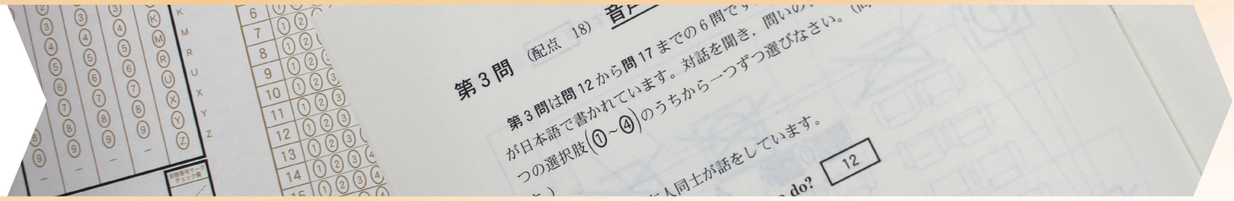
問題作成者 → 自己点検・評価

▶ 試験問題の作成・点検

共通テストは、大学入学志願者が大学で学ぶために必要な能力を有しているかを各大学が把握することができるよう、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを目的としており、良質な問題を作成することは大学入試センターの重要な使命です。

大学入試センターは、試験実施の約2年前に「問題作成方針」を策定し、公表します。この問題作成方針に基づいて、問題作成や点検が行われています。各分野の専門性を有する国立、公立、私立大学の教員等が問題作成や点検に携わっています。

試験終了後には問題に関する外部評価、自己点検・評価を行い、良質な問題の作成に取り組んでいます。



数字で見る大学入学共通テスト

共通テストの志願者数等

志願者数

約 50 万人

共通第１次学力試験、大学入試センター試験、大学入学共通テスト受験者延べ人数は、約 50 年間で **約 2,200 万人**

受験上の配慮許可者数

約 4,400 人

病気・負傷や障害等のために、受験に際して配慮を希望する志願者に対し、個々の症状や状態等に応じた受験上の配慮を実施

共通テストの問題作成

問題作成分科会委員数

約 500 名

各分野の専門性を有する国立、公立、私立大学の教員等が就任
委員であることは厳重に秘匿され、本務の同僚や家族にも明かせない

１年あたり問題作成分科会開催日数

延べ 約 1,200 日

情報漏洩防止の観点から、
問題作成や点検は大学入試センターの施設内で行われている
委員は、年間 **約 15 回**、**約 50 日** 大学入試センターに来訪している

１年あたり問題点検部会等開催日数

延べ 約 330 日

問題作成は、**「作成」と「点検」のサイクル**を
複数回繰り返しながら、十分な議論を尽くし慎重に行われている

共通テストの利用大学

詳細は
大学入試センター
公式ウェブサイト
をご覧ください。▶

４年制大学の 約 9 割 が共通テストを利用

共通テストの利用大学数は

約 840 大学

平成２年度大学入試センター試験の利用大学数は **148 大学**

共通テストの試験会場数

試験会場数（本試験）

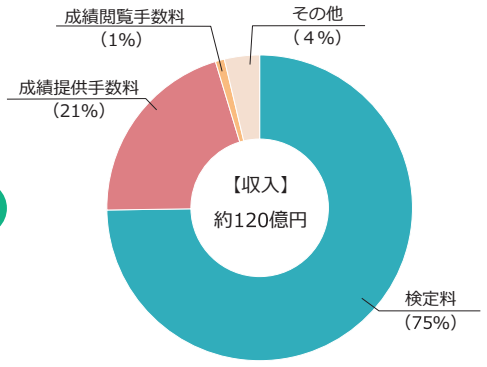
約 660 会場

受験者の利便性に配慮しつつ、試験の円滑な実施や効率性を踏まえ、全国に設置

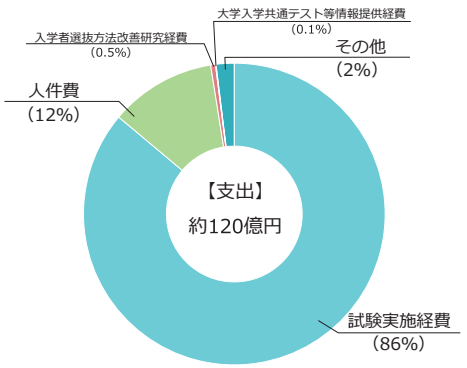
大学入試センターの年度予算

約 120 億円

収入



支出



※四捨五入しているため、合計は 100%となりません。

大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究

大学入試センターは、研究組織として研究開発部を設けており、大学入学のための共通試験の改善及び個別大学における入学者選抜方法の改善を目的とする多くの研究を行っています。

研究開発部における調査研究について

研究開発部は、高大接続研究部門と試験技術研究部門の２部門からなり、共通テストに関する調査研究、大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究を行っています。

共通テストに関する調査研究

① 試験問題の作成支援に関する研究
② 共通テストの各科目・各項目の統計的性質に関する研究
③ 本試験と追試験の比較に関する調査研究
④ その他共通テストの改善に関する調査研究

大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究

① 新技術を活用した入学者選抜に関する調査研究
② 障害のある者等に配慮した入学者選抜に関する調査研究
③ アドミッションスタッフの育成支援等に関する実践研究
④ その他大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究

詳細は大学入試センター公式ウェブサイトをご覧ください。

シンポジウム

大学入試センターは、大学入試に係る研究成果について社会に発信するため、シンポジウムを開催しています。

全国大学入学者選抜研究連絡協議会

大学入試センターは、大学の入学者選抜方法の改善に関する調査及び研究に関し、研究交流の一層の推進に資するため、全国大学入学者選抜研究連絡協議会を主催しています。

事業内容

① 大学間における研究協議のための全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会の開催
② 大会を通じた入学者選抜に係る共同研究
③ 上記活動に係る学術雑誌「大学入試研究ジャーナル」および報告書「大学入試研究の動向」の編集・発行

アドミッションリーダー研修

大学入試センターは、大学におけるアドミッションスタッフの育成支援に資するため、アドミッションリーダー研修を開催しています。

独立行政法人
大学入試センター
National Center for University Entrance Examinations

〒153-8501　東京都目黒区駒場2-19-23
電話番号　03-3468-3311（代表）

大学入試センター公式ウェブサイト
https://www.dnc.ac.jp/

大学入試センター公式X（旧Twitter）
@DNC_Japan

※令和８年４月時点の情報で作成しています　　令和８年７月発行